

学校だより

よしずえ

甲斐市立双葉東小学校 平成22年8月31日号

「やさしい心 あふれるえがお」の2学期に！

8月27日（金）33日間の夏休みを終えた双葉東小学校の子どもたちが、宿題や作品を抱え元気に登校して来ました。子どもたちは各家庭で愛情のシャワーをいっぱい浴び、自信に満ちた様子でした。4名の転入生を含め638名の児童による双葉東小学校2学期がスタートしました。

ご承知の通り夏休みは子どもたちにとっての夏休みですが、教職員にとっては勤務日となります。しかし授業日ではないので研修・研究会が目白押しになります。そのような中、教職員が例年にない取り組みをしてくれました。一つ目は「夏休み水泳教室」でした。数人の先生方がチームを組むために予定を差し繰り指導に当たってくれました。前半の水泳教室は、各学年にいる顔を水につけるのも難しい児童に対して、少しでも水に親しめるようにしてくれました。後半の水泳教室は、3年生以上に対して、ある程度泳げるが25mには満たない児童の泳力を伸ばしてくれました。午後にはほぼ毎日プール開設があったので、校長としてその情熱には頭が下がりました。参加した多くの子どもたちの口からも達成感に満ちた話を聞くことができました。二つ目は、学級単位や学年単位での学習指導日が増加したことでした。支援員の先生も学習に困り感のある家庭や個人を対象に、午前午後に分け、昨年と同様個別指導もしてくれました。本来夏休みは、子どもたち一人ひとりが普段の学校生活では出来ない体験を家庭生活で培うものですが、こうした取り組みも夏休みのような長期休業中でなければ出来ないことです。あえて紹介させていただきました。

そして私が何よりも嬉しかったことは、一番心配していた夏休み中の交通事故等、事件・事故が1件も発生しなかったことです。報告がなかったという事実からそう判断しました。本校規模の学校になりますと大変難しいことです。交通安全主任を中心とする先生方の普段からの指導が功を奏した結果ともいえますが、何より家庭教育の成果といえます。校長就任3年目で初めてのことでした。今後こうあってほしいと祈念したほどです。

さて2学期は9月18日に予定されている運動会を始め1学期に負けないほどたくさんの行事があります。学校行事の中で一番の人が集まる行事が運動会です。多くの子どもたちがとても楽しみにしています。学級・学年、そして学校全体がその取り組みで熱を帯びた状態になります。この取り組みの中で学級・学年、そして子ども一人ひとりが大きな成長を遂げていきます。まもなくその取り組みが始まろうとしています。始業式の中で私は子どもたちに「やさしい心、あふれるえがお」の2学期にしていこうと話しました。いろいろな想いから話をしました。それは、運動会の取り組みを前にして子どもたちが、運動の苦手な仲間も体の不自由な仲間もいることを意識してほしかったからです。子どもたち一人ひとりが運動会の取り組みを通じ、あふれるえがおになるために、みんながやさしい心で考え行動する事が必要になると考えたからです。実は運動会ばかりではありません、学級生活・学習場面でも同じ事が言えると思います。その後3人の学年代表による、夏休みの貴重な体験談と2学期へ向けての決意発表を聞きました。



3人とも全校児童の気持ちを象徴している発表で、とても堂々としていて素晴らしいものでした。

74日間の2学期が始まりました。保護者の皆様方にも、運動会をはじめ学校に足を運んでいただく機会が多々あります。是非1学期同様ご協力のほどをお願い申し上げます。

前期学校関係者評価委員会の報告

去る7月27日夜7:30から学校関係者評価委員会が会議室で開催されました。メンバーは、学校評議員さん6名とPTA会長・副会長（女性代表）さらに学校側から校長・教頭・教務主任による合計11になっています。1学期中に行った教職員自己評価書と児童アンケートの結果分析と改善策、さらに学校のあるべき姿等についての協議を行いました。以下まとめたものです。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

双葉東小学校の教職員による自己評価と児童用アンケート結果は、総じて良好の水準にあるといえる。多くの項目が肯定的方向で安定しており、日々の教育実践に対する評価は、比較的高い水準を維持していると言える。ただし、個々の項目の中から見えてくる課題に対してはその原因を探り、教職員集団が一つになって取り組む必要がある。



II 特徴

- ・過去3年間に国や県の指定を受けて、道徳実践及び授業内容の充実に力を入れてきた。
- ・過去数年間に渡って取り組んで来たあいさつ運動への取り組みは、地域、家庭を巻き込んで広まりを見せてきている。
- ・ここ近年の傾向で児童数が増加してきている。そのため、ややもすると人間関係が希薄になる傾向もあり、問題が発生しやすくなっている。
- ・校長を中心に全ての教職員が子どもと向き合う努力をしている。
- ・数年間に渡る「朝読書」への取り組みは、子どもたちの学習への姿勢や生活態度によい影響を与えている。
- ・昨年度整備済みの「校庭芝生化」により外遊びに励む児童が多くなった。

III 今後の課題として意識されたいこと

- ・「教職員の自己評価」では、最大回答数がA評価の項目が多いが、B評価が最大回答数である項目もある。また、ごく少数であるがC評価・D評価を選択する者もいた。その原因を把握し、今後に役立てることが必要である。
- ・「教職員の自己評価」の質問内容で「あなたは～」「保護者は～」「児童は～」などと数種に渡るが、聞き方の違いで回答にも違いが現われている。（「あなたは～」の質問項目の中ではB評価になるものがあった。）
- ・「教職員の自己評価」の「I～学校教育目標・学校経営について 設問7～あなたの学校は、職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている。」でB回答が割と多いことが話題となった。勤務時間以後の残務処理が多く、それが教職員によるB回答が多い理由であると考えられる。今後の課題として意識していきたい。
- ・「教職員の自己評価」の「II～学校運営について 設問2～あなたは、危機管理（防犯・防災・事件・事故等）マニュアルを理解している。」でB回答が割と多いことも話題となった。不審者の侵入防止については、長年進めてきた当番制の玄関係を児童との遊びの中で行うことにしたので、教職員の意識に影響したと考えられる。
- ・「児童用アンケート」では、回答を選びにくい項目があったので、ことばの言い回しを回答しやすいように検討して欲しい。
- ・「あいさつ運動」に長年取り組んできた学校であるので、あいさつに関わる質問に対してはもう少しA評価の回答を増やす努力をして欲しい。
- ・生徒指導上、いじめにつながるような問題が生じないように、今後も教職員は児童と向き合っていくことが大切である。

※ 特記事項

せっかく、学校評価の機会を与えられたので、学校評価の数値結果が意味するものが何であるのかをしっかりと意識したい。学校関係者評価委員会を実施することにより広く意見を求め、保護者や地域と連携し学校を高めていきたいと思う。